

## 秋の陣 その8

浪人時代の夏休みの終わりほど、肌がちりちりとして心が泡立つような焦燥の中にあった記憶は、いまだかつてない。何とかしなければ、何とかしなければといろいろな参考書を手に取って、できるだけ効率の良い学習方法はないか考えに考え抜いていながら、そのくせ、やらなければならないことはいつの間にか放置して、現代文とか英語のリーディングとか伸びてきた教科はあるものの、肝心の世界史と日本史がいつまでたっても体系化して記憶に残らず、そのことが最後の最後まで全体のバランスを苦しめ、足をすくわれる結果になったのだから何とも言いようがないと今反省するばかりである。数学や理科が、文系でありながら得点源になっていたのも、そのことで苦しまなくて済んだのはかなりのアドバンテージであったのに、肝心の社会の2教科が足を引っ張ったのが悔やんでも悔やみきれないところである。

理由はわかっている。完璧を求めたからなのだ。それもそれ基礎の始めからすべてを完璧にしようとして、いつも初めに戻るという愚行を繰り返したからなのだ。

わかるところからピースを当てはめていくように、全体を見据えてどこか進めればいいのに、いつもギリシャに戻り平安鎌倉室町に戻り、近代史が手薄になっていることをそのままにしておいたつけが、最後にどっと全体のバランスを崩す結果となってしまうのだ。

だいたい受験とは全体のバランスによって成り立っている。大学に入るとそれは違うものになる。ある得意分野の深さが大学では大きなステイタスをもたらす。

でも、受験は全体のバランスこそがすべてなのである。どこをつつかれてもそこそこにこなす力、分からない部分ではなく解っているところからの類推による、正答に近づこうとするその歩みこそが解答用紙で評価されるところなのである。

浪人時代もそろそろ飽きてきただろう卒業生諸君。

さあ、もう少しだ。あと半年だ。もう一度、バランスの観点から自己評価を客観的に行い、残りの時間でできることに専心してください。できないことを悔やんでも仕方がないので、ここまで費やした時間をもう一度積み上げる季節をこなしてください。負けるわけにはいかないが、心のゆとりをもって進むことが肝要だ。

現役生は、まだまだやるべきことがいっぱいだ。できるところからできるだけ進めるのがいつもの戦略である。まだまだ止まることはない。これからゾーンにはいる季節である。ゾーンに入ると何もかもが見えてくる。まだまだ前に進むがよいぞ。振り返るのは、この先にある完熟地点が来てからだ。

